

令和6年岩手県モデル事業所伴走支援

施設概要 特別養護老人ホームぬくもりの家

施種種別	介護老人福祉施設
定員	50名
開設日	2002年4月25日
所在地	岩手県奥州市

手順01 改善活動の準備をしよう

- ・生産性向上の取組を推進するにあたって、プロジェクトチームをつくる。
- ・現場担当者に任せるだけでなく、経営層も関与。
- ・経営層から、取組開始のキックオフ宣言をし、取組の意義等を周知。

手順02 現場の課題を見える化しよう

- ・ハナスト使用がフルタイム職員のための使用と使用者が限られている。
- ・ハナストで記録は行っているがインカム機能を使いこなせていない。
- ・ハナストで記録していても時間切れなど入力がうまくいかない。

ハナストを活用し、介護記録を音声入力することとインカム機能で職員の連携を強化する。

手順03

実行計画を立てよう

導入したテクノロジー

ケアカルテ
ハナスト

ハナストを活用し、介護記録を音声入力することとインカム機能で職員の連携を強化する

1

マスターラインの作成

- 職員が気づきを付箋で貼り、リーダーがそれを元にブラッシュアップ。

2

ハナスト機能の基準・ルール作成

- 記録機能の整理。
- インカム機能の連携内容の整理。
- ハナスト装着・基本操作マニュアルの作成。

3

ハナスト記録機能発語マニュアル作成

- 各業務ごとに名刺サイズのカード型マニュアルを作成。

手順04

改善活動に取り組もう

導入したテクノロジー

ケアカルテ
ハナスト

～工夫した点～

ハナストを活用し、介護記録を音声入力することとインカム機能で職員の連携を強化する

1

マスターラインの作成

- マスターラインや基準・ルールは皆で共有できるよう張り出した。
- マスターラインを確認しながら動いてもらい、不便な動きがないか気づきを出してもらった。

2

ハナスト機能の基準・ルール作成

- この取組みが目的にならないよう、目指す姿・やりたいことを貼りだした。

3

ハナスト記録機能発語マニュアル作成

- 記録発語カードはどこでも使えるよう持ち運びしやすいカード型にした。
- 使用するところに直接つけたり、持ち歩いたり業務に合わせて使い方を職員が工夫。

手順05

改善活動を振り返ろう

①インカム機能を活用して、どのような内容について対話したか

取組前

3

取組後

13

介護職を呼ぶ、ヘルプしてもらう

取組前

5

同じ勤務時間の介護職に報告・連絡・相談

取組後

25

介護職同士の
連携向上

②ハナストでどのような業務記録や内容を記録したか。

- ・支援項目 1 1
- ・状態観察 2
- ・おやつ提供 1
- ・移乗（離床） 1

職員間の連携も
スムーズで、ヘルプにも行くことができた。

介助の都度入力することができ、PCでは確認作業のみでよくなった。

手順06

実行計画を練り直そう

新たな課題

- 利用者と関われる時間が増えたことで、直接関わるだけでなく、そのための準備である「間接業務」も多くなっている。



- 間接業務にあたる時間を更に専門性の高い直接ケアへ注力できるよう、ICT・ロボットの導入や介護助手の導入・活用の検討をしていく。